

和牛、対米輸出2割減

4月、トランプ関税響く

和牛の米国向け輸出額が4月に前年同月比で2割減り、トランプ関税の影響が出始めた。国内需要の頭打ち感も強まる中、和牛農家は欧州や中東など輸出先の多角化に取り組んでいる。

欧州・中東へ販路探る

農林水産省によると、2024年の牛肉輸出額は前年比12%増の648億円となり、2年連続で過去最高だった。25年も1〜4月合計は前年同期比で約1割増えるなど堅調だ。

輸出額全体の21%（24年）を占め、最大の輸出先である米国を巡っては、関税強化が懸念材料だ。財務省の貿易統計によると、4月の輸出額は前年同月比2割減の6億8345万円だった。日本からの牛肉には4月から従来の26・4%に10%を加えた36・4%の関税がかけられ、今後さらに上

乗せられる可能性もある。

、和牛専門の食肉卸ニイあたり2800円前後と
 チク（東京・江東）の植 前年比横ばいの2400
 村光一郎取締役は「関税 円台だ。相場上昇前の15
 の影響は全く見通せない」と話す。その上で「人
 口の多さや所得の高さか
 る。

高に伴う節約志向の高まりで高価な和牛の需要は振るわない。東京市場における6月のA5等級枝肉の卸値(去勢の加重平均)は16〜18年に1キログラムあたり2800円前後とピークをつけ、足元では前年比横ばいの2400円台だ。相場上昇前の15年並みの水準で低迷する。

ら、米国では高関税でも和牛への潜在需要は大きい」と期待する。

人口減に加え、和牛にこだわらず安価な交雑牛や乳牛、豚、鶏を選ぶ人

日本国内では牛肉全体の需要は堅調だが、物価が増え、価格を下押ししている。主要輸出先の米

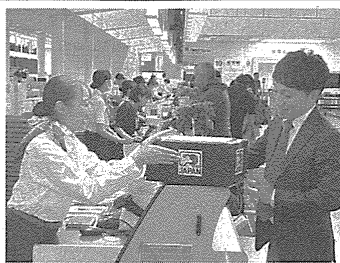
国やアジアだけでなく、衛生基準や動物福祉、宗教など規制の厳しい欧州やイスラム圏に輸出先を多角化しようとする事業者が目立つ。

岩手県の食肉加工会社
いわちく（同県紫波町）

JALは空港での検疫手続きを代行し、気軽に和牛の持ち帰りができるサービスを実施している

国産牛肉の主な輸先 (2024年実績)	
	輸出額
米国	134億円 (45%)
台湾	112億円 (19%)
香港	84億円 (▲7%)
カンボジア	67億円 (▲21%)
タイ	39億円 (39%)
世界全体	648億円 (12%)

(注) カッコ内は前年比増減率、▲はマイナス。出所は農林水産省



は24年4月、政府から欧州連合（EU）向けの輸出認定を東北地方で初めて取得し出荷を始めた。宮崎県ではSEミート宮崎（同県西都市）がムスリムの戒律、ハラルにのっとった食肉加工場を24年に操業し、25年1月からカタールへの輸出を開始した。

海外ではサーロインなどロイン系部位の人氣が

から米国やシンガポールへ向かう便の搭乗者向けに専用サイトで牛肉を販売。空港検疫をJALが代行する「和牛お土産サービス」を24年10月に始めた。25年5月末からは従来の北海道和牛や鹿児島黒牛に加えて岐阜県の飛騨牛の取り扱いも始め、和牛購入分の超過手荷物料金を免除するとしてた。

輸出拡大の動きが広がる一方、生産者には輸出効果を実感しにくい面もある。栃木のブランド、とちぎ和牛をつくる経営者組織「とち和会」の横尾光広会長は「生産者は枝肉の競り後の流れを把握できず、輸出でもつかっている実感はあまりない。流通ルートが分かるようにしてほしい」と話す。

金額の約6割を占めるが、ロイン系は重量構成比で1頭からとれる食肉の1割強しかない。モモやバラなど複数の部位を含むフルセットでの輸出に比べよとすると動きもある。

を産出する茨城県は5月6月、カナダから販売業者を招き、競りや肉のさばき方について学ぶツアーを初めて実施した。部位ごとの特徴を詳しく知ってもらう、フルセット輸出の拡大をめざす。

JAL全農ミートフーズ
(東京・港)と組み和牛
の海外展開を後押しする
のが日本航空(JAL)
だ。羽田空港や成田空港